

[2016]九州大学情報統括本部年報 : 2016年度

<https://hdl.handle.net/2324/2198501>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2016, pp.1-. Information Infrastructure Initiative, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



第13章 図書館連携事業

13.1 図書館システム支援に関する事項

(1) システム更新に向けた調整

平成 29 年 12 月の図書館システム更新に向けて、現在のシステム及び情報インフラの課題・問題点を整理し、仕様書をまとめ、入札により業者を決定するための調整を図った。

(2) 可用性及びセキュリティ確保のための調整

ネットワーク事業室及びソフトウェア事業室と連携し、以下の事項への対応を支援した。

- SSL/TLS ソフトウェアの FREAK 攻撃に対する脆弱性（平成 28 年 6 月）
- ウイルス対策ソフト（Symantec Endpoint Protection）の脆弱性（平成 28 年 7 月）
- 全学ファイアウォールでの学外からのネットワーク一部通信制限（平成 28 年 7 月）
- DNS サーバ BIND の脆弱性（平成 28 年 10 月）
- 同上（平成 29 年 1 月）

(3) 図書館の移転に伴う環境整備の支援

ネットワーク事業室と連携し、伊都地区に建設した新中央図書館について、平成 28 年 10 月プレオープンの準備として、ネットワーク環境の整備の最終的な調整を図った。

(4) 無線ネットワーク環境整備の支援

ネットワーク事業室と連携し、教育研究機関等に所属する学外利用者を対象とした無線ネットワーク環境（eduroam）の整備を支援した。（平成 29 年 3 月）

13.2 電子コンテンツサービス支援に関する事項

(1) Shibboleth 認証サービスの安定運用

Shibboleth（学認）による電子コンテンツへのリモートアクセスについて、附属図書館及び認証基盤事業室と連携して対応した。主な事項は以下の通りである。

- 利用者からの要望や障害報告への対応
- 図書館 SP の脆弱性対応やソフトウェアアップデート
- 学外 SP の新規接続設定 1 件

(2) リモートアクセスサービスの提供

リモートアクセス可能な電子コンテンツについて 27 件の追加及び変更作業を行った。平成 28 年度、EZproxy によるリモートアクセス件数は参考資料 1 の図 1 のとおりとなった。また、図 2 のとおり、過去 3 年間で利用を順調に伸ばした。

（参考資料 1、図 1・図 2）

(3) 不正利用への対応

電子ジャーナルの不正利用等による出版社からのアクセス停止措置が 9 件発生した。これ

らについて、支線 LAN 管理者を通じて調査した利用状況を出版社へ報告し、アクセス制限の解除を行った。

(4) ウェブ文献管理ツールの提供

ウェブ文献管理ツール RefWorks を提供し、平成 28 年度は参考資料 1 図 3 のとおり利用があった。また、表 1 のとおり、箱崎、伊都、病院、大橋、筑紫地区で計 31 回、文献管理ツールに関する講習会を附属図書館との連携により実施し、延べ 230 名の参加者を集めた。(参考資料 1, 図 3・表 1)

13.3 機関リポジトリ支援に関する事項

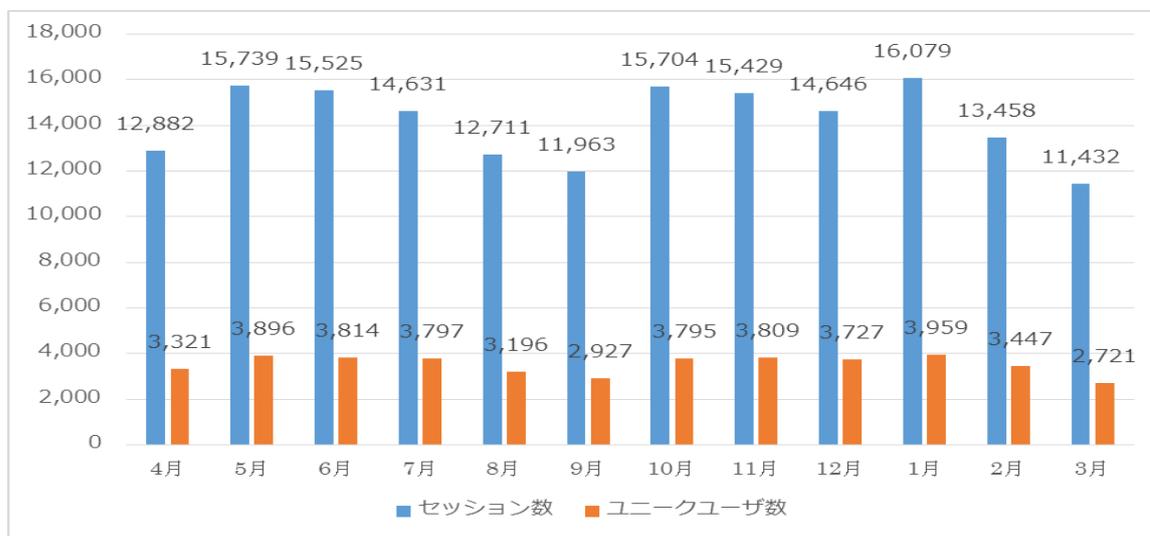
- (1) 平成 27 年度に引き続き、機関リポジトリと大学評価情報システムの今後の連携仕様について、インスティテューショナル・リサーチ室(旧大学評価情報室)との意見交換を実施した。

13.4 図書館での教育支援に関する事項

- (1) 附属図書館が部局とともに実施した新入留学生向け図書館ガイダンスで、学生用 SSO-KID の有効化、kitenet/edunet の接続、全学基本メールの転送など情報サービスの設定補助を行った。
- (2) 図書館 TA (Cuter) と連携し、図書館内での教育情報サービスに関する学生向けの相談サービスを実施した。平成 28 年度の箱崎、伊都、病院地区における附属図書館への情報統括本部提供サービス関連の問合せのうち、131 件を図書館 TA (Cuter) が対応した。
- (3) 平成 29 年 3 月に撤去された教育情報システム端末 (iMac) の代替サービスとして、必携 PC を持たない一部の大学院生や留学生、研究生が契約データベース等を利用できるように、Chromebox 及び Chromebook を図書館全体で 22 台調達し、据付・調整、運用の支援を行った。また、利用者が USB フラッシュメモリを使って印刷できるよう環境整備の調整を行った。

各種統計

図1： 平成28年度 EZproxy 利用統計
セッション数及びユニークユーザ数



転送量

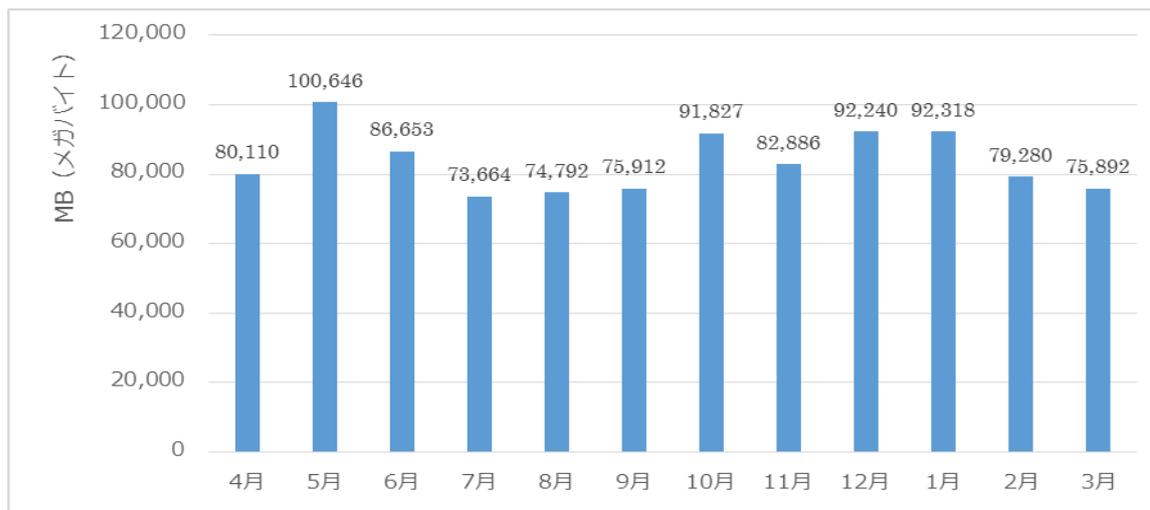
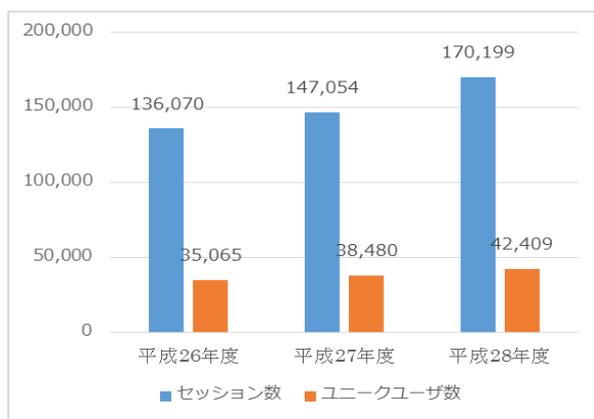


図2： EZproxy の利用の推移 (平成26~28年度)

セッション数及びユニークユーザ数



転送量



図3：平成28年度 RefWorks 利用統計

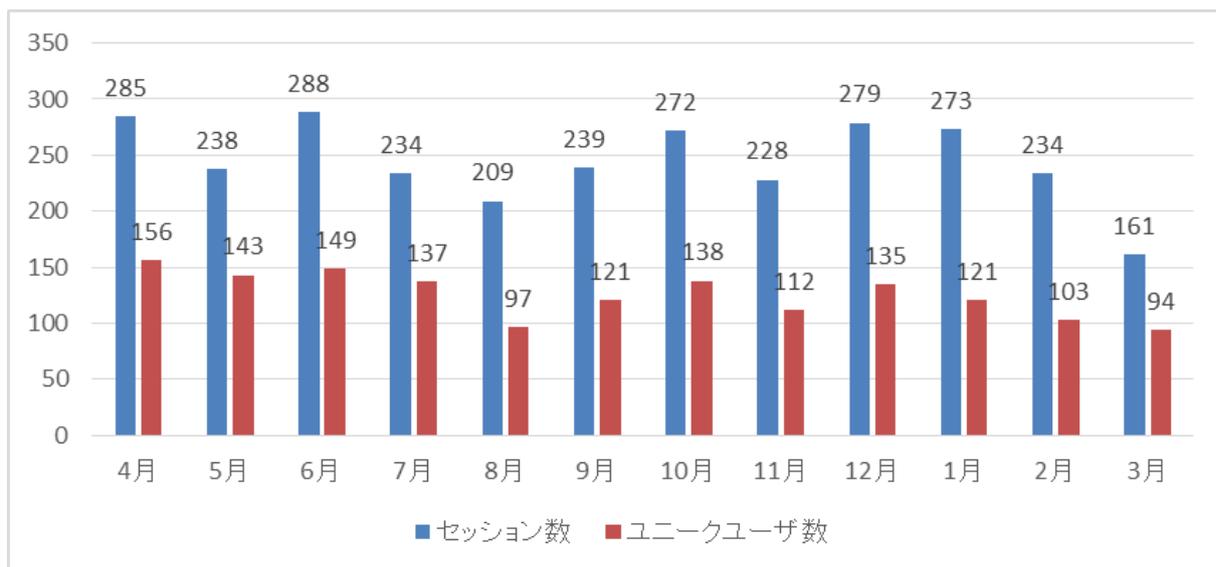


表1：平成28年度 文献管理ツールに関する講習会開催実績

地区	回数	参加者数
箱崎	6回	36名
伊都	10回	79名
病院	11回	93名
大橋	2回	18名
筑紫	2回	4名